

北海道 150 年の スタートライン

平成 30 年の新年を迎えて皆様におかれましては、新年の誓いを胸に、様々なことに取り組んでおられるかと思えます。会員の皆様にとって稔り多き一年になります様に心よりお祈り申し上げます。

今年は北海道命名 150 周年と言う記念すべき節目の年だそうです。幕末の混乱から明治に代り、我国も産業革命を経た欧米先進国に追い付き追い越せと近代化に邁進しようとしていたスタートラインの時が北海道のスタートでもありました。全国から多くの方々がこの日本のフロンティアに移住し、開拓に取り組み、その多くの先人の努力の上に現在の北海道が作られたと言えます。

150 年前、北海道は辺境の未開の地であったことから、歴史や伝統に縛られる必要がなく新たなチャレンジをするフィールドとして魅力的な舞台でありました。街作りや新産業育成など多くのチャレンジがなされ、北海道で生まれた数多くの技術が日本の近代化に貢献しました。私の住む函館は、明治から大正にかけて、国際貿易港として栄え、50 年程度で人口も 4 万人から 15 万人へと 3 倍以上に急増しています。その中で生活用水の不足や大火、コレラの流行など多くの都市問題が表出し対応を迫られました。

それらの問題に対しての対応策として、防災都市計画及び区画整理、上下水道、都市公園などの西洋の先進技術を取り入れた近代的街作りのチャレンジが行われています。その他にも開港都市として外国人が大量に流入した事により、食材の提供に迫られて、西洋農業、酪農、西洋料理等々の技術も道南から生まれ育ち、全国に広がりました。

道南から生まれ育った技術の一つにインフラ整備

布 村 重 樹 (ぬのむら しげき)

技術士 (建設 / 上下水道 / 森林 / 総合
技術監理部門)

北海道本部
道南技術士委員会代表



に欠かせないコンクリートの技術があります。上磯にある太平洋セメントの前身である北海道セメントは、いち早くセメント製造に取り組み、明治末期には日本最大規模のセメント製造量を誇り、全国に出荷し、我国のインフラ整備を陰で支えていました。

小樽港北防波堤の建設で有名な廣井勇も小樽港の前に函館港で、コンクリートを港湾整備に活用する為に必要なコンクリートの品質管理技術を試行錯誤の上に確立しました。その後のインフラ整備へのコンクリートの活用に道筋を付けた大きな技術的な挑戦でもありました。その他にも日本初の鉄筋コンクリート造寺院の東本願寺、日本初のコンクリート電柱、日本初のバットレス形式の笹流ダム等々、安心安全な生活や経済活動に欠かせないコンクリート構造物やそれを支える技術を産み出して来た歴史があります。道南だけでなく北海道全域で日本の近代化のために欠かせない様々な技術に挑戦した先人の努力の痕跡が存在します。この先輩技術者達はきっと、使命感の中で課題解決に悩み苦しみ、不断の努力で乗り越えて来たのであろうと思います。

次の 200 年までの 50 年は、我国は成熟後の人口減少期を迎えます。特に地方は、過疎化の進行により人口減少率は大きく、下手をすると消滅の危機にも直面しかねません。都市偏重の 20 世紀型の経済活動も見直しが求められている中、北海道の地勢的な利点が活かされる可能性もあります。150 年前は欧米先進モデルが存在しましたが、現在は見習うべきモデルも存在しません。地方の自律手法を確立する新たなフロンティアとして北海道の地が役割を果たす新たなスタートの年が今年なのかも知れません。